

地域振興

「まず是从から」

前田正名と地方創生

前田正名(1850-1921)



地域の産業振興はどの時代でも重要テーマだ。ただその先駆者として明治時代に前田正名という男がいたことはあまり知られていない。前田の人の思想を交えて地方創生を考える。

創立120周年の織維メーカー、グンゼは毎年、創業の地・京都府綾部市で新入社員研修を開く。JR綾部駅近くの「あやベグンゼスクエア」には、市民や観光客も訪れる。

創業者・波多野鶴吉をしのぶ蔵の2階の一角に、ひとりの人物が写真付きで登場する。

養蚕が盛んなこの地(旧何鹿郡)で1895年、「今日の急務は国是・県是・郡是を定むるにあり」と演説した前田正名である。養蚕業発展と地域振興を促し、翌96年、郡是製絲(現在のグンゼ)が発足したことを、研修で新人らは胸に刻むことになる。

「観る森」阿寒が伝える精神

薩摩藩生まれ。親交があった坂本龍馬に紹介されたフランスに7年間留学。帰

是とは地域の計画、進むべき道という意味。児玉和グンゼ社長(68)は「演説は郡民に大きな感動を与え、



グンゼの社史の展示では、繭をかたどった模型が並び、訪れた人が見ていた。京都府綾部市のあやベグンゼスクエア

国後、大蔵、農商務省などに勤め、1884年に地方産業の振興策「興業意見」(全30巻)をまとめた。90年1月に農商務次官に昇任したが、同年5月に退官。在野で全国を行脚し町村是運動を展開した。フランス時代の活躍が小説や宝塚歌劇のミュージカルになった。

創業者も共鳴した。人間尊重、優良品の生産、共存共栄が創業の精神で、そのものになったのが何鹿郡の郡是です」と語る。

前田正名は明治政府の官僚だった。地方振興を訴えたきっかけは、当時の蔵相、松方正義のデフレ政策への懸念だった。

農産品をはじめとする物価の下落で地方が困窮、それを救済しようとした。後に蔵相、首相になる高橋是清を一番弟子に地方を詳細に調べあげた。品質向上、輸出促進、興業銀行設立による資金調達など地方からの改革を提案した。しかし、明治の中央集権



阿寒湖温泉にある
前田正名の胸像
と、孫の前田三郎
氏＝北海道釧路市

国家には通じなかった。政
商や海外技術重視で上から
の富国強兵を強烈に進める
政府と対立、野に下った。

前田研究の第一人者、祖
田修京大名誉教授(76)は
「前田は茶や生糸、織物な
ど地域資源の大切さを全国
行脚して訴えた。是作りを
促し、業界団体を作らせ
た」と話す。

グンゼ社史によると、岩
手県是製糸や佐賀県是蚕業
など、社名に是がある製糸
会社が全国で24社できた。
是は西日本から東に波及し
全国で1千近く作られた。
政府の主流になれなかつ
た前田だが、①地域資源の
活用②シンボルとなる「是」
の作成③組織による協働、
という下からの地方振興に
関する貴重なメッセージを
今に残した。

戦後の全国総合開発計画
(全総)や公共事業による
上からの地域振興が困難と
なり、地方創生が叫ばれる
いま、メッセージは、地域

振興のひな型として再評価
されつつある。

「この森は私の祖父、前
田正名が、明治政府の払い
下げを受けて所有していま
した。『観る森』にしよう
と保存し、今は立派な観光
資源になりました」

北海道阿寒湖畔の森林な
ど3900畝を所有する前
田一步園財団の顧問、前田
三郎さん(94)はいう。

明治期、森は林業、つま
り「伐る森」だった。観る
ための保存は画期的だっ
た。一帯は森や自然が評価
され、日本初の国立公園が
指定された1934年、阿
寒国立公園となった。世界
的に珍しいマリモの群生地
としても有名だ。

地域資源の森を中核に、
温泉も出て湖畔にはホテル
が並ぶ。注目の観光地とな
った背景には、是に匹敵す
るビジョンの存在があっ
た。阿寒は前田の精神を体
現しているように見える。

(長谷川智)